

シンポジウム総括

Ts. プレブスレン
モンゴル日本語教師会副会長

皆様、長い時間大変お疲れ様です。

今回の第15回日本語教育シンポジウムは、後援の在モンゴル日本国大使館及びシンポジウム主催にご協力していただいた機関と関係者の方々のお陰様で無事に終了いたします。

今日の基調講演をしてくださった森篤嗣先生には、参加者の皆さんと一緒に、もう一度、感謝の拍手を送りたいと思います。

本日のテーマは、とても意味深く、面白いテーマだったので、より効果の高い、実りのあるシンポジウムになったと思います。コーパス言語学というのは、応用言語学の一部であり、モンゴル語の研究では、辞書作りとか文法の処理には限られているということで、外国語教育に効果的に使うということは、まだ、なかったのが事実です。つまり、コーパス言語学は外国語教育、特にモンゴルにおける日本語教育の近代化の話題になったと思います。社会が変わると同時に人間の考え方も変わりますし、それにつれて言葉の使い方もスピード早く変わるということで、コーパスに基づいた語彙指導が、日本語教授法に導入されていくのではないかと思います。

日本語教師の我々にとっては、森篤嗣先生講演の内容が、現代の日本語教授法を教育学の実用的観点から考察するチャンスになっているのが強調すべきなところだと思います。我々がコミュニケーション能力の育成の大事な要素は学習者の語彙の豊かさだと思ってきたのです。語彙指導では単語として何を教えるべきかを取り上げたのが、我々にとって、貴重な勉強になったと思います。特に非言語環境の中で、学習者の目的が多様化されている現在、生きた日本語コミュニケーションの学習に役立つ語彙能力を育成することは非常に難しいことだと、改めて実感しています。コーパスに基づく語彙指導は、総合日本語の授業だけではなく、日本語学習者の目的によって多様化されている日本語教育、日本語教授法の発展にも役立つと思います。ということで、基調講演で述べられた、コーパスに基づく語彙指導というのはコミュニケーション能力育成の問題解決の一つの方法になるのではないかと思います。

それに、コーパス言語学は、我々が知っていながら知らない統合言語学の新しいパラダイムの一つであり、さらに、コンピューター言語学、コーパス言語学、認知言語学の総合化の新しい概念です。これに従って、我々が教師でありながら研究もしなければならぬように思われています。

森篤嗣先生は、「使い慣れたら簡単」だとおっしゃったんですが、実践してみて、そんなに容易でないと実感しましたので、明日からできればNLBを始めて試行錯誤しながら頑張っていきたいと思います。先生に、改めて感謝申し上げます。

これで簡単な総括を修了とさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございます。